

# ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 97 10月号

2013年10月1日 発行  
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

URL <http://tatsulib.city.tatsuno.hyogo.jp/>



携帯専用サイトへは、  
左のQRコードから  
(URL:<http://tatsulib.city.tatsuno.hyogo.jp/m/>)

## 読書と私 No.89

### 「月曜日の楽しみ」

相生市 玉田 礼子

「えーっ、月曜日に開いている図書館があるんだ！」

月曜日に新宮へ行くことが多くなって数年。何故それまで気づかなかったのかとショックを受けながらも大変嬉しかったことを思い出す。以前はあまり時間に余裕がなく、図書館に行くことはまれだった。それが今では、図書館はケーキ屋さんと同じくらい興味深く、行くのが楽しい場所になった。

図書館では、好きなジャンルの本だけでなく様々な本に出合えるのが魅力だ。新刊書コーナーで何気なく手に取った本が面白くて一気に読んでしまうことがある。最近では、安房直子さんの『山の童話 風のローラースケート』が楽しめた。人と動物の不思議な交流が心地よい作品だった。子どもだけでなく大人が読める童話があれば色々読んでみたいと思う。また、写真集や物作りの本などは見るだけでも楽しいが、実際に作る楽しみに繋がることもある。

また、季節や旬の話題に応じたコーナーが設置されているが、その他にもいろいろなイベントが催され、窓口でお誘いの声を掛けてもらえるのも有難い。西表島のパネル展では、写真だけでなく標本を見ながら話を聞くことができ、遠い南の島への関心が大きくなった。グリム童話のおはなし会では、ストーリーテリングを聞かせてもらうだけでなく、解説もしていただいて関連図書を紹介してもらった。初版から改訂を重ねるたびに内容が変ってきていることなど今まで頓着したことがなかった。このように一人で読書するだけでは得られない新しい知識に触れられるのは嬉しいことだ。

今ではたつの市に住む高齢の母親の希望する本も借りることがある。新刊書一覧を見ながら、面白そうな本はどれかなと母と過ごすひと時も楽しいものである。

これからも図書館を大いに利用して心豊かな生活を楽しみたい。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。



『銀の匙』

なか かんすけ  
中 勘助 著

岩波書店



本書は先日亡くなられた国語教師橋本武氏が、ある私立中学校で3年間かけて読みこむ教材として用いた事で知られている。夏目漱石が未曾有の秀作と絶賛した作品である。

本書は作者の子ども時代の日常体験が淡々と自伝的に書かれている。前編は10才頃までで、明治44年に発表、後編はそこから17才頃までで、大正10年に発表された。

「私」は身体が弱く、産後の母も体調が思わしくなかったため、一緒に暮らしていた伯母に深い愛情でもって育てられる。同世代の友達もできず、学校へあがっても勉強はできなかった。お国さんという身体の弱い友達ができ、お国さん一家が引越したあともかわいいお蕙ちゃんとよく遊んだ。お蕙ちゃんから「びりっこけなんぞと遊ばない」と言われた時ショックを受けたが、それから一生懸命勉強し、ぐんぐん成績は伸び、身体も元気になり、餓鬼大将にまでなる。

日清戦争のころ、世の中は戦争一辺倒で殺伐としていた。「私」は支那の悪口をいう仲間に対して「日本は負ける」と言い切った。また道徳の授業が大嫌いで、孝行ということに関して先生とやり合ったり、出来るだけ行儀を悪くして反抗する。そんな中、少林寺の貞ちゃんとは将棋倒しや道中双六やたこ揚げなどをして遊んだ。16才の時、郷里で暮らしている伯母に会いに行く。目が見えなくなり年老いてはいたが、「私」とわかり、お互い心底喜びあう。17才の時には一人で友達の別荘に滞在し、偶然訪れた友達の姉と出会い、初対面の挨拶もできない自分を恥じた。

気が弱く小心者なのに負けず嫌いで厄介な性格の「私」が美しい文章で描かれている。また季節の移り変わりや花の美しさ、自然の偉大さが読み取れるとともに巧みな心理描写も併せ持つ。

本書は大人の回想した子ども時代ではなく、子どもが体験した子どもの世界を描いている。子どもの繊細な感じ方や捉え方が柔らかい文章で綴られ、温かい気持ちになれる。

(揖保川図書館 石井)

## トピックス

## 読書会へのお誘い



龍野図書館、揖保川図書館、御津図書館で毎月「読書会」を開催しています。参加者が選んだ本の読後感などについて話し合います。興味のなかったジャンルの本に挑戦したり、自分と同じ考えに安堵感を覚えたり、人生をか語り合ったりする貴重な時間になっています。

年度途中でも入会できますので、気軽に覗いてみてはどうでしょうか。



### 龍野図書館

毎月第2金曜日  
午前10時～11時30分  
2階 研修室

### 揖保川図書館

毎月第3金曜日  
午前10時～12時  
アケアホール会議室3

### 御津図書館

毎月第3水曜日  
午後1時～  
2階 研修室



## おすすめする子どもの本・90

### 『がちょうのペチューニア』 ロジャー・デュボワザン作 富山房

がちょうのペチューニアが散歩に出かけると、本が落ちていました。ペチューニアは本を持っていると賢くなると考え、本と共に過ごしました。そのうち自分は賢いのだと錯覚し、首がどんどん伸びました。その様子を見た動物たちは困ったことがあると、ペチューニアに相談するようになりました。

めんどりのアイダがひよこの数を数えてもらうよう頼むと、ペチューニアは9羽いたひよこを「6羽」と数え、しかもそれは「9羽より多い」と言って混乱させました。また、歯痛で苦し

む馬のストローには、「全部抜いてしまえばいい」と言って歯を抜こうとしました。

ある日、草地に食べ物入りの箱が落ちていと動物達が騒いでいました。ペチューニアはその箱に書かれた『花火 取扱注意』という文字が読めず「キャンデーだ」と教えました。すると動物達は花火にかぶりつき、花火は爆発してしまいました。その衝撃で本が開き、ペチューニアは中に文字が書いてあることに気が付きました。そして本を持ち歩くだけでは賢くなれないと分かり、勉強に取りかかりました。

表情豊かなペン画は、動物たちを生き生きと描き、さまざまな事件を引き起こすペチューニアが愛おしく感じられます。他にシリーズが6冊あります。読んであげるなら5歳ぐらいから。

(新宮図書館 井口)

---

### 『太陽の戦士』 ローズマリ・サトクリフ 作 岩波書店

青銅時代のイギリス、イングランドの丘陵地帯に暮すドレムはある日、祖父が片腕のきかない自分のことを話すのを聞いてしまう。部族で一人前の戦士になるには、槍と楯を持ち、一人で「オオカミ殺し」を戦わなければならないが、ドレムには無理だというのだ。打ちひしがれて夜の森をさまよい歩いたドレムは、明け方、狩人タロアに出会う。タロアは、ドレムの恐れと不安を理解し、ドレムに語りかけた。「もし、事が戦うのにふさわしいことなら戦え。道はある。まわり道もあれば、こえていく道もな。弓のかわりに投げ槍を練習しろ。そして、やりとげて部族の戦士の仲間入りをするときは、証人に立ってやる」と。勇敢な戦士といわれるタロアもまた、片腕なのだ。

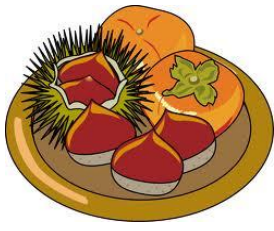
やがてドレムは、槍の腕前をあげてタロアに示し、自分の猟犬ノドジロを手に入れる。そして、槍の兄弟になる仲間との力争いや、他の部族との「猟犬の戦い」の争いにも、ドレムは一步もひかず立ち向かって行った。ところが、3年の訓練を終え、仲間たちと迎えた「オオカミ殺し」をしくじってしまう。ばけもののように大きなオオカミ

に肩を咬まれたドレムは、血の兄弟のボトリックスに助けられ、オオカミは逃げてしまったのだ。

絶望したドレムは部族を離れ、羊飼いと暮す。しかし、次の冬の夜、老羊飼いのドリを助けようと踏み込んだ吹雪の森で、ドレムは飢えたオオカミの群れに一人で立ち向かい、傷つきながらも1度は逃した自分の「オオカミ殺し」をやりとげる。仲間から1年遅れたものの、ドレムは戦士の証しの緋色のマントをはおり、祖父とタロアを証人に、成人の儀式を迎えたのだった。

小さなドレムが、孤独や不安を乗り越え成長していくさまが、力強く描かれている。小学5・6年生から。

(御津図書館 廣瀬)



# 各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	10月の予定
龍野図書館 Tel (0791) 62-0469	●子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時~11時30分)	10日 『夜明けの風』ローズマリー・サトクリフ著
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時~11時30分)	11日 『半分のふるさと』イ・サンクム著
	貴重本一般公開 『ミケランジェロ・ラ・ドッタ・マーノ』、ちりめん本等の展示 【日時】26日(土)27日(日)11時~15時 【場所】龍野図書館資料室(2階)		
新宮図書館 Tel (0791) 75-3332	●えほんのじかん	2~4歳児、保護者 ----- 第1・3月曜日(11時~11時20分)	7日・21日 『ころころころ』他
	■おはなしのじかん	5歳児~ ----- 土曜日(11時~11時30分)	5日・12日・19日・26日 「かしこいモリー」他
	「昔話で学ぶ中国語」(全3回) 講師:佐々木一恵(新宮図書館) 初学者のための「読む」中国語講座。昔話を題材に、中国の文化もあわせて学びます。 【日時】1回目:10月20日(日)・2回目:10月27日(日)・3回目:11月10日(日) 10時~11時30分 【対象】一般(中学生以上)15名(要申込)※先着順(3回全て出席できる人優先)		
「粘菌のふしぎ、発見 -身近でできる粘菌の観察会-」 講師:井内由美さん(日本変形菌研究会会員) 林などで朽木にくっついていて粘菌を虫めがねでのぞくと、不思議な光景が広がります。 【日時】10月19日(土) 10時~12時 【対象】小学生~一般(小学生は保護者同伴)15名(要申込) 【集合場所】新宮図書館 【持ち物】歩きやすい服装と靴・雨なら雨具・虫めがね(あれば)・50円(保険料)			
揖保川図書館 Tel (0791) 72-7666	●えほんのじかん	3~5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分~10時50分)	12日・19日 『おおきなかぶ』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時~11時30分)	12日・19日 「スヌークスさん一家」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時~12時)	18日 『四十八人目の忠臣』諸田玲子 著
御津図書館 Tel (079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児~、保護者 ----- 第2日曜日(11時~11時20分)	13日 『のろまなローラー』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分~15時30分)	8日 『紅梅』津村節子 著